

第三内科

1. 掲載論文

1) 感染症合併糖尿病患者の臨床的検討—当科入院加療を要した症例について—

感染症学雑誌 2007 ; 81 : 720—725

池島 進 平井裕一 玉澤直樹 須田俊宏

2. 学会発表

1) 第56回日本感染症学会東日本地方会総会

感染症合併糖尿病患者の臨床的検討—当科入院加療を要した症例について—

池島進 平井裕一 玉澤直樹 須田俊宏

【目的・方法】生活習慣の欧米化と高齢化社会の到来により、近年糖尿病患者が急増している。特に、様々な合併症を持った高齢者糖尿病では感染症を併発する機会が多く、それに対する適切な処置が、患者のQOL向上、医療費削減にとって重要な課題と考えられる。そこで、2002年～2005年の間、青森県立中央病院内分泌内科に入院し、抗菌薬の経静脈投与を行った比較的重症と考えられる感染症合併糖尿病患者98例（男性60名 女性38名）について、血糖コントロール状態、糖尿病性腎症の程度と炎症反応、治療への反応を比較検討した。

【結果】入院時HbA1cを、良（6.5%未満）可（6.5～8.0%未満）不可（8.0%以上）、悪（10%以上）で分け、白血球数、CRP、抗菌薬投与期間を検討したところ、コントロール不良群で、より抗菌薬の投与期間が長かった。治療中断または未治療群では、血糖コントロールは不良で、より長期の抗菌薬の投与が必要であった。また、糖尿病性腎症を合併している症例が多く、低アルブミン血症を有する患者ではより抗菌薬の投与期間が長かった。入院中のインスリン投与量を検討したところ、感染症の合併に伴って、インスリン需要量は増加し、感染症の改善と共に、減少することが示された。【結論】糖尿病の早期介入、加療継続、糖尿病の厳格な血糖コントロールと良好な栄養状態の保持、病態に合わせた適切な抗菌剤の投与が、糖尿病患者に合併した感染症の治療、QOLの向上、抗菌薬投与期間の短縮、各種耐性菌感染症への防止、ひいては医療費削減へつながると思われた。

2) シンポジウム「糖尿病眼合併症」オーバービュー

第4回青森県臨床糖尿病研究会 平成19年9月16日 弘前市
八代 均

3) 「糖尿病患者のAIの検討」

第4回青森県臨床糖尿病研究会 平成19年9月16日 弘前市
八代 均

3. 講演

- 1) 「生活習慣病としてのメタボリック症候群と糖尿病」
歯科医師会平成19年講演会 平成19年1月27日
北秋クラブ
八代 均
- 2) 専門家に学ぶ健康教室「知って得する生活習慣病予防」
比内福祉保健センター 平成19年2月22日
八代 均
- 3) 「クレストールの症例報告ースタチン系薬剤の比較検討ー」
大館北秋田医師会学術講演会 大館市 平成19年4月6日
八代 均
- 4) 「糖尿病における脂質異常症の治療」
弘前市医師会学術講演会 弘前市 平成19年8月31日
八代 均
- 5) 「左副腎腫瘍の1例」
第12回内分泌クリニカルカンファレンス IN 八戸 平成19年9月25日
八代 均
- 6) 「ゼチーアの症例報告」
大館北秋田医師会学術講演会 大館市 平成19年9月21日
八代 均
- 7) 「ヒューマログミックス 25注、50注の使用経験」
秋田県糖尿病治療学術講演会 秋田市 平成19年11月30日
八代 均
- 8) 「糖尿病と漢方」
大館北秋田医師会学術講演会 大館市 平成19年12月2日
八代 均